

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月
上越教育大学

目 次

別添資料 1	教職キャリアファイル目次	1
別添資料 2	平成20年度教職キャリア教育による実践的 指導力の育成	3
別添資料 3	海外教育(特別)研究B報告書	5
別添資料 4	e-Learningコンテンツ一覧	6
別添資料 5	e-Learningコンテンツの利用に関する 問い合わせ機関一覧	7
別添資料 6	平成21年度授業評価結果(修士課程)	8
別添資料 7	平成21年度授業評価結果(専門職学位課程)	9
別添資料 8	3教育大学合同説明会	10
別添資料 9	平成17～21年度授業評価結果 (平均値の比較)(抜粋)	11
別添資料10	G P A 制度に関する取扱い	12
【不開示】別添資料11	授業改善事例(自己評価レポート抜粋)	13
別添資料12	第6回教育実践研究発表会に関するアン ケート集計結果(抜粋)	15
別添資料13	くびきの奨学金給付要項	16
別添資料14	「学校支援フィールドワーク」チーム一覧	17
別添資料15	研究プロジェクト成果報告書目次	18
別添資料16	学校教育実践研究センター研究報告書 (平成21年度版)目次	20
【著作権】別添資料17	ハートアイシステム概略図	21

目 次

I 教職キャリアテキスト編

1 教職キャリアとは	5
2 目指す教師像	8
3 教職キャリア教育の体系	11
4 教職キャリアファイルの構成	13
5 教職キャリアファイルの使い方	14
* 「上越教育大学スタンダード」と「教育実習ルーブリック」「教育実地研究Ⅰ・Ⅱ」の 到達目標との関連表	17

II 教職キャリアシート編

【学部1年】

1 入学時の自分自身を明確にしよう	21
2 「人間教育学セミナー」到達目標で資質能力を自己評価	22
3 入学してから前期終了までの自分自身を振り返ろう	23
4 「教育実地研究Ⅰ（観察・参加）」自己課題と自己評価	24
5 観察・参加実習後の自分自身を振り返ろう	25
6 教職キャリアの履歴を成果としてまとめておこう	26
7 1年間の自分自身を振り返ろう	28

【学部2年】

1 「教育実地研究Ⅱ」到達目標で資質能力を自己評価	29
2 「教育実地研究Ⅱ」後の自分自身を振り返ろう	30
3 「教育実地研究Ⅰ（観察・参加）」（幼稚園実習）自己課題と自己評価	31
4 観察・参加実習後の自分自身を振り返ろう	32
5 教職キャリアの履歴を成果としてまとめておこう	33
6 1年間の自分自身を振り返ろう	35

【学部3年】

1 分離方式初等教育実習「教育実地研究Ⅲ」（観察・参加実習）自己課題と自己評価	36
2 「観察・参加実習」後の自分自身を振り返ろう	37
3 「教育実習ルーブリック」を指標にして本実習に臨もう	38
4 「学習指導案」を更新し続けよう	39
5 分離方式初等教育実習「教育実地研究Ⅲ」（本実習）自己課題と自己評価	41
6 「本実習」後の自分自身を振り返ろう	42

7 教職キャリアの履歴を成果としてまとめておこう	43
8 1年間の自分自身を振り返ろう	45

【学部4年】

1 「教育実習ルーブリック」を指標にして中等教育実習に臨もう	46
2 中等教育実習「教育実地研究Ⅳ」自己課題と自己評価	47
3 「教職実践演習」スタンダードで資質能力を自己評価	48
4 「教職実践演習」後の自分自身を振り返ろう	49
5 「総合インターンシップ」の自己課題と自己評価	50
6 「総合インターンシップ」後の自分自身を振り返ろう	51
7 教職キャリアの履歴を成果としてまとめておこう	52
8 1年間の自分自身を振り返ろう	54
9 大学時代の教職キャリアの成果と今後の展望	55

Ⅲ 教職キャリア資料編

1 教職キャリア形成に関する図書・雑誌	59
2 就職・進路に関する情報	62
* メモシート	

この「教職キャリアファイル」に綴じる教職キャリア教育に関連する科目テキスト&記録簿

【授業科目テキスト】

- ・「教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究Ⅰ・Ⅱ）」テキスト
- ・「教育実地研究Ⅲ（初等教育実習）」テキスト
- ・「総合インターンシップ」概要
- ・「教職実践演習」概要

【教育実習記録簿】

- ・「観察・参加実習記録簿（小規模小学校・附属中学校・特別支援学校）」（1年）
- ・「観察・参加実習記録簿（幼稚園）」（2年）
- ・「初等教育実習記録簿」（3年）
- ・「中等教育実習記録簿」（4年）
- ・「総合インターンシップ記録簿」（4年）

【別添資料 2】平成20年度 教職キャリア教育による実践的指導力の育成

(3)「教育実習ルーブリック」を活用した取組の考察

観察・参加実習前（6月）、本実習直前（9月）、実習終了後（10月）にルーブリックを活用して、学生は自己点検を行ってきた。下記は、学生が実習後の事後指導時に書いた「実習のふりかえり」である。

ルーブリックの自己評価を行い、教育実習中に伸びたことを実感した。

授業に関する項目は、担任の先生のご指導のもと、常に目標をもちながら授業を行ったため、特に伸びたと自負している。その時間の目標とは、「鉛筆を置きましょう」という指示をする、この板書の部分は見やすくするなど小さなものであったが、それらを確実に積み上げていくことができた。

逆に、私の課題は、「子ども理解」である。・・・・略（H）

まず、教育実習前のルーブリックの自己評価と事後では、内容のとらえ方、考え方が違うと感じた。例えば実習で実際に児童と関わることで「Ⅲ教員として求められる幼児・児童、生徒理解や学級経営に関する事項」の大切さを身をもって感じた。もちろん前も大切なことであると頭では理解していたが、今、事後評価をしてみると実習中の出来事や自分の様子が浮かんでくるので、自分の足りなかったことや達成できたことがよく分かる。

その中で、自分の教育課題をあげたいと思う。児童とのコミュニケーションはよくとれた。休み時間もよく遊んだし、授業中も児童の発言を受け止め、質問にも的確に答えることができたと思う。授業の流れもスムーズに運ぶことができた。

しかし、それ以前に授業内容や組み立てがうまくいかなかったと反省している。板書計画をもっとしっかりと立て、分かりやすい板書にする工夫が足りなかった。

また、評価についてもあいまいだった。評価規準や評価方法は立てたものの、その達成度を把握して評価するところまではできなかった。ねらいの達成度をつかみ、それをもとに課題を明らかにして、次の授業に生かすことが理想である。それだけの心の余裕をもち、力をつけていきたい。教材研究を行う際は、「ねらい」の設定をもっと考えることによって、よりよい授業展開ができると思う。（M）

九月の本実習を終え、ルーブリックの一つ一つの項目についてもそれぞれの具体的な場面を思い浮かべながら自己評価をすることができた。

まず、「児童との関わり」や「児童理解」について考える。すべての児童と平等に積極的に関わることを意識していたのだが、近寄って話しかけてくれる児童と無口な児童とで考えると平等に接することは難しいと思った。しかし、話題や活動内容によっては積極的になる児童もいるので、様々な場面で関わっていくよう努力していく必要がある。

また、特別な教育的支援を要する児童については、理解がとばしいため、ボランティア活動などを通して、経験を積むことが大事だと考える。

全日実習などを通して、教師の仕事は授業をすることだけでなく、学級経営、生活指導など様々なものがあることが分かった。ループリックの項目でも、「朝の会」「帰りの会」「給食」「清掃」等がある。これらについても、しっかりクラスの雰囲気やルールをつくり、それに基づいて行うことが大事だと思った。褒める、叱るなどメリハリのある指導ができるようになりたい。

授業については、事前準備の大切さと発問の言葉の力を改めて感じた。よって、児童の反応を予測するのはもちろんのこと、それに対する支援、言葉の言い回し、板書計画などこれからいろいろなパターンを考え、その場に応じて使えるようにしたい。

また、机間巡視についても、支援が必要な児童だけに気をとられていたが、支援のためだけではなく、良い気づきをしている児童の考えを見取り、意図的、効果的な指名に役立てることも必要だと思った。(H)

これらの感想から次のようなことが考えられる

- ① 学生が教育実習に向かうにあたり、教員としての使命感や社会性など授業以前の視点から自己点検し課題を明らかにできることに意味がある。
- ② 観察実習前、実習直前、直後と同一の尺度で自己点検することで、自分の成長を具体的に確認することができる。特に、実習直後はループリックの一項目ごとの記述が具体的な場面を想起させ、実感を伴った評価に変わっている。
- ③ 項目Ⅴ「教科等の指導力」については、実習中の教育実践をもとに具体的なイメージをもって評価している。各項目において「Third Stage」につながるような気づきと意欲が読み取れる。
- ④ 今後は、ループリックの3回の自己点検をさらに計画的に実施し、教職キャリアファイルに綴じ込ませ、自己の課題を一つ一つ克服していくよう支援していく。

【別添資料3】

平成21年度

第27回 海外教育(特別)研究B(2009 9.16～9.30)

報告書より学生の感想部分を抜粋

Group2 日本のダルマを紹介しよう！

☆ プレゼンテーションを終えて

(略)

学部生の2人は日本での教育実習も未経験であるのに、子どもたちの前で落ち着いて堂々とプレゼンテーションすることができ立派であった。話の聞かせ方や指示の出し方、子どもたちへの目の配り方などの経験は今後の日本での教育実習にきっと生きるであろう。

トラブルに対しても落ち着いて対応できた。今回はプレゼンテーションで使うパソコンの調子が悪く映像が映らない時には臨機応変にプレゼンテーションを進め、子どもたちに対応していた。また、「だるまさんがころんだ」の活動の中で子どもたちがルールを曖昧にしてしまったときにも、一旦活動を止め冷静に指示を出し、やり直しをさせた。これも生きている子どもたちの授業ではなにが起きるか分からない状況に対応していく経験ができたのではないかと感じている。

グループ2の3人は今回の経験を通してますます深く教育、子ども、英語などについて考えることができた。「また英語でプレゼンテーションをやってみたい」「アメリカに留学したい」「英語をもっと勉強したい」という意欲も湧いてきた。このプレゼンテーションで終わりということではなく、次への意欲や活動のスタートとし、今後の私たちの活動に今回の経験を生かしたいと思う。

(略)

3班 Kanji を書いて、Japanese culture に触れてみよう！

○ プレゼンの感想・反省

私は今回の研修プログラムの内容に目を通したとき“アメリカの学校で授業ができる！”ということに強く惹かれました。しかし、まだ教壇に立った経験もなかった私は実際にグループごとで準備に取り掛かると右往左往してばかりで、指導案を作るのも英訳をするのも同じグループの先輩を頼りきっていました。特に「次に何をすべきなのか？」この疑問が頭に浮かばない日はありませんでした。それゆえ、今回の研修ではアメリカの教育制度・情勢を大いに学ぶことができましたが、それ以上に同じグループの先輩方の姿から“授業を作る”とはどういったことなのか、何を考え何を配慮し何を準備しなければならないのかというこれからの自分を活かすスキルを学びました。

2校のプレゼン先で自分の満足のいく結果が残せたとはいえず正直なところ思えません。今でも振り返ると「あの時もっとこうすべきだったのでは・・・」・「もっと別の言い方あったのでは・・・」と考えてしまいます。けれども、今回の研修の中で教壇に立ち“教える”ということの魅力を再確認できた気がしています。この研修プログラムを通して後悔や学びもたくさんありましたが最後に得たこの大きな気づきをこれからの自分に活かせるようにしていきたいと思いました。

(略)

(出典：平成21年度第27回 海外教育(特別)研究B (2009 9.16～9.30) 報告書)

【別添資料4】e-Learning コンテンツ一覧

1	ワープロ文書作成講座(MS-Word2007)
2	ワープロ文書作成講座(MS-Word2003)
3	表計算ソフト活用講座(MS-Excel2003)
4	表計算ソフト活用講座(MS-Excel2007)
5	プレゼンテーション作成講座(MS-PowerPoint 2003)
6	プレゼンテーション作成講座(MS-PowerPoint 2007)
7	これで完璧！ Office2003とOffice2007コマンド対応学習講座
8	ホームページ作成講座(Dreamweaver 8)
9	ホームページ作成講座(Dreamweaver CS3)
10	Fireworks活用講座
11	Flash活用講座(Adobe Flash 8)
12	動画編集ソフト活用講座(ムービーメーカー編)
13	動画編集ソフト活用講座(Let's Edit)
14	はっぴょう名人3自学自習講座
15	つたわるねっとTeen's自学自習講座
16	電子情報ボードの特徴を活かした授業作り
17	これだけは知っておきたい！ インターネット入門講座
18	WWWの基本技術
19	フィッシング詐欺の解説
20	インターネット詐欺
21	SNS炎上に伴う個人情報の流出
22	情報セキュリティ読本
23	ワークショップ型研修講座(Podcast)
24	総合的な学習の時間の充実のため(Podcast)
25	総合的学習・体験的学習の実践的手法
26	食育のひろば 一学校で活用できる食育コンテンツ
27	バスケットボール実習
28	器械運動指導法
29	Phonix: 英語教材(PodCast)
30	木材加工(PodCast)
31	いのち教育とは 第1章「いのち教育」の必要性 第2章「いのち教育」と行政 第3章「いのち教育」の目標 第4章「いのち教育」の教材と授業 第5章「いのち教育」の授業
32	自殺予防教育について 第1章 自殺予防教育の必要性 第2章 自殺についての理解度 第3章 うつと自殺 第4章 授業例

【別添資料 5】

e-Learning コンテンツの利用に関する問い合わせ機関一覧

照会年月日	機関の名称等	コンテンツの利用目的	利用対象者	備 考
2010/03/15	住友ベークライト(株)	同社職員のスキルアップのため	同社職員	
2009/12/03	上越市 総務部情報管理課	同市職員のスキルアップのため	同市職員	
2009/06/10	新潟県立看護大学	学生及び教職員のスキルアップのため	同校学生及び 教職員	
2009/05/27	仙台市教育局 教育指導課	教員，児童・生徒のスキルアップ 授業教材としての活用	仙台市内の 小・中学校 教員，児童・生徒	
2009/04/10	東北学院大学	学生及び教職員のスキルアップのため	同校学生及び 教職員	
2008/11/18	上越市教育委員会 学校教育課	上越市食育推進計画推進の一貫として，構築する「食育ポータルサイト」からのコンテンツへのリンク依頼	上越市内の 学校教職員等	
2008/10/20	愛知県蒲郡市 東三河公立小中学校 事務職員研究会	同研究会職員のスキルアップのため	同研究会 事務職員	
2008/08/26	九州電力(株) ビジネスソリューションズ	同社職員のスキルアップのため	同社職員	
2008/04/30	大阪市交通局	同交通局職員のスキルアップのため	同交通局職員	
2008/04/22	千葉県柏市 市民生活部 男女共同参画室	同市管理の HP「参画 eye」 利用者のスキルアップのため	同市管理の HP 「参画 eye」利用者	
2008/04/22	青山学院大学	学生及び教職員のスキルアップのため	同校学生及び 教職員	
2008/02/06	学校法人実践女子学園	学生及び教職員のスキルアップのため	同校学生及び 教職員	
2007/12/18	NHK（日本放送協会）	同協会職員のスキルアップのため	同協会職員	
2007/07/13	新潟県南魚沼市	同市職員のスキルアップのため	同市職員	

【別添資料 6】平成21年度授業評価結果（修士課程）

平成21年度授業に関するアンケート結果

授業科目名 オムニバス形式の共通科目(8科目)受講者数 316 人 回答者数 273 人

○ 授業の方法について	は い					いいえ	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
⑥ 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	113	104	48	7	1	0	0	4.18
	41.4%	38.1%	17.6%	2.6%	0.4%	0.0%		
⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 注) ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	136	86	41	4	2	4		4.3
	49.8%	31.5%	15.0%	1.5%	0.7%	1.5%		
⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。 注) ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	114	101	47	3	3	5		4.19
	41.8%	37.0%	17.2%	1.1%	1.1%	1.8%		
⑨ この授業の教え方は、適切でしたか。	126	90	51	6	0	0		4.23
	46.2%	33.0%	18.7%	2.2%	0.0%	0.0%		

○ 授業の内容について	は い					いいえ	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
⑩ この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	113	111	39	7	3	0	0	4.19
	41.4%	40.7%	14.3%	2.6%	1.1%	0.0%		
⑪ この授業目標は、明確でしたか。	126	88	43	13	3	0		4.18
	46.2%	32.2%	15.8%	4.8%	1.1%	0.0%		
⑫ この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注) 上の設問番号⑤で、シラバスを確認していないと回答した場合は、マーク不要です。	106	83	49	5	0	30		4.19
	38.8%	30.4%	17.9%	1.8%	0.0%	11.0%		
⑬ この授業の難易度は適切でしたか。	113	111	45	4	0	0		4.22
	41.4%	40.7%	16.5%	1.5%	0.0%	0.0%		
⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。	142	94	31	6	0	0		4.36
	52.0%	34.4%	11.4%	2.2%	0.0%	0.0%		
⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	133	98	35	7	0	0		4.31
	48.7%	35.9%	12.8%	2.6%	0.0%	0.0%		

(出典：平成21年度学生による授業評価アンケート集計結果)

【別添資料 7】平成21年度授業評価結果（専門職学位課程）

平成21年度授業に関するアンケート結果（専門職学位課程）

授業科目名 臨床共通科目受講者数 53 人回答者数 46 人

○ 授業の方法について	は い					いいえ	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
6 教育課程の解決を図る条件・方法を探るための事例研究の提供は適切に行われていましたか。	23	19	4	0	0	0	0	4.41
	50.0%	41.3%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
7 前半の授業において、教育課題の解決を図るための討論や質疑応答の機会は十分に与えられていましたか。	21	15	8	1	1	0	0	4.17
	45.7%	32.6%	17.4%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	
8 教育課題の解決を図るための実地の調査などは適切に行われていましたか。	20	13	10	3	0	0	0	4.09
	43.5%	28.3%	21.7%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
9 受講の成果を発表・討議する機会の提供は十分に与えられていましたか。	23	14	5	4	0	0	0	4.22
	50.0%	30.4%	10.9%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
10 教育効果を十分にあげられるような適当な受講人数となっていましたか。	33	10	3	0	0	0	0	4.65
	71.7%	21.7%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
○ 授業の内容について（本学独自の力量形成も含む）	は い					いいえ	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
11 この授業目標は、明確でしたか。	21	17	6	2	0	0	0	4.24
	45.7%	37.0%	13.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
12 この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注）「5」でシラバスを確認していないと回答した者除く	15	9	10	1	0	11	11	4.09
	32.6%	19.6%	21.7%	2.2%	0.0%	23.9%	23.9%	
13 この授業で、教育現場における課題が積極的に取り上げられていましたか。	28	13	4	0	0	1	1	4.53
	60.9%	28.3%	8.7%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	
14 この授業は、理論と実践の融合という視点から、全体として実践的な力量形成を意識した内容でしたか。	26	14	6	0	0	0	0	4.43
	56.5%	30.4%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
15 この授業で、教職に必要な即応力を付けることが出来たと思いますか。	17	17	11	0	1	0	0	4.07
	37.0%	37.0%	23.9%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	
16 この授業で、教職に必要な臨床力を付けることが出来たと思いますか。	22	16	7	1	0	0	0	4.28
	47.8%	34.8%	15.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
17 この授業で、教職に必要な協働力を付けることが出来たと思いますか。	32	10	4	0	0	0	0	4.61
	69.6%	21.7%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
18 あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	27	17	2	0	0	0	0	4.54
	58.7%	37.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

授業科目名 プロフェッショナル科目受講者数 241 人回答者数 162 人

○ 授業の方法について	は い					いいえ	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
6 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	118	36	8	0	0	0	0	4.68
	72.8%	22.2%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
7 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。注）該当しない場合は、	108	37	9	2	0	6	6	4.61
	66.7%	22.8%	5.6%	1.2%	0.0%	3.7%	3.7%	
8 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。注）ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク	107	30	14	1	0	10	10	4.60
	66.0%	18.5%	8.6%	0.6%	0.0%	6.2%	6.2%	
9 この授業の教え方は、適切でしたか。	118	35	7	1	0	1	1	4.68
	72.8%	21.6%	4.3%	0.6%	0.0%	0.6%	0.6%	
○ 授業の内容について	は い					いいえ	無回答	平均
	5	4	3	2	1			
10 この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	112	43	7	0	0	0	0	4.65
	69.1%	26.5%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
11 この授業目標は、明確でしたか。	122	32	7	1	0	0	0	4.70
	75.3%	19.8%	4.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
12 この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注）「5」でシラバスを確認していないと回答した者除く	88	31	26	2	0	15	15	4.39
	54.3%	19.1%	16.0%	1.2%	0.0%	9.3%	9.3%	
13 この授業の難易度は適切でしたか。	107	41	14	0	0	0	0	4.57
	66.0%	25.3%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
14 この授業は、興味深い授業内容でしたか。	128	31	3	0	0	0	0	4.77
	79.0%	19.1%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
15 あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	126	31	5	0	0	0	0	4.75
	77.8%	19.1%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

（出典：平成21年度学生による授業評価アンケート集計結果）

3教育大学合同シンポジウム2009

上越教育大学
兵庫教育大学
鳴門教育大学

大学院における教師教育の魅力 ー3大学の教職大学院教育プログラムの特色ー

平成21年5月17日(日)

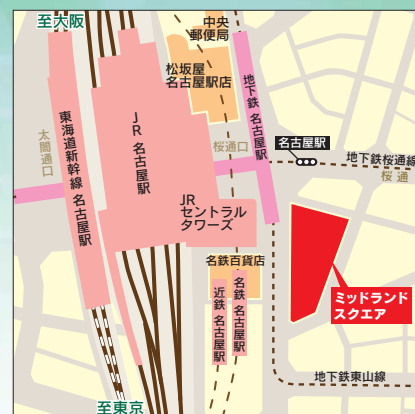
13:20~16:30 *受付は13:00より

ミッドランドスクエア 5F

(名古屋市中村区名駅4-7-1)

参加費：無料

【会場までのアクセス】



- 電車
 - ・JR名古屋駅南口 徒歩約5分
 - ・名鉄中央改札口 徒歩約3分
 - ・近鉄正面改札口 徒歩約3分
 - ・地下鉄東山線南改札口 徒歩約1分
- バス
 - ・市バス 名古屋駅南下車 徒歩約0分
 - ・あおい交通 名古屋駅前下車 徒歩約0分
 - ・JR高速バス 名古屋駅南口バスターミナル下車 徒歩約7分
 - ・名鉄バス 名鉄バスセンター下車 徒歩約7分
- 車
 - 名古屋高速都心環状線錦橋出口より 約10分

※所要時間は、道路状況および渋滞状況により変動いたします。

内 容

I. シンポジウム (13:20~14:45)

(1)開会(13:20~13:30)

主催者挨拶

高橋 啓(鳴門教育大学長)

(2)基調講演(13:30~14:00)

「新学習指導要領と教師教育」

講演者：梶田 勲一

(中央教育審議会副会長・兵庫教育大学長)

(3)シンポジウム(14:00~14:45)

テーマ「大学院における教師教育の魅力」

ー3大学の教職大学院教育プログラムの特色ー

シンポジスト

小林 辰至(上越教育大学教育実践高度化専攻長)

加治佐哲也(兵庫教育大学教育実践高度化専攻長)

佐古 秀一(鳴門教育大学高度学校教育実践専攻長)

コーディネーター

若井 彌一(上越教育大学長)

II. 3教育大学大学院説明会(15:00~16:30)

上越教育大学 兵庫教育大学 鳴門教育大学

*同一会場で実施

【別添資料 9】平成17～21年度授業評価結果（平均値の比較）（抜粋）

○学校教育学部

アンケート事項	5段階評価の平均値				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
○授業の方法について					
⑥ 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	3.87	3.90	3.97	4.02	4.06
⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	3.90	3.90	3.99	4.03	4.07
⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	3.68	3.72	3.83	3.89	3.97
⑨ この授業の教え方は、適切でしたか。	3.86	3.89	3.96	4.02	4.06
○授業の内容について					
⑩ この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	3.89	3.92	4.01	4.03	4.07
⑪ この授業目標は、明確でしたか。	3.91	3.96	4.03	4.07	4.08
⑫ この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注)上の設問番号⑤で、シラバスを確認していないと回答した場合は、マーク不要です。	3.35	3.73	3.87	3.91	3.94
⑬ この授業の難易度は適切でしたか。	3.86	3.90	3.95	3.97	3.99
⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。	4.04	4.05	4.11	4.13	4.16
⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	3.98	4.01	4.05	4.08	4.12

○大学院 学校教育研究科

アンケート事項	5段階評価の平均値				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
○授業の方法について					
⑥ 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	4.37	4.40	4.40	4.47	4.44
⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	4.32	4.37	4.36	4.49	4.46
⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	4.13	4.22	4.21	4.39	4.38
⑨ この授業の教え方は、適切でしたか。	4.34	4.37	4.37	4.47	4.44
○授業の内容について					
⑩ この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	4.29	4.36	4.37	4.45	4.41
⑪ この授業目標は、明確でしたか。	4.39	4.44	4.46	4.52	4.47
⑫ この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注)上の設問番号⑤で、シラバスを確認していないと回答した場合は、マーク不要です。	4.03	4.22	4.26	4.35	4.33
⑬ この授業の難易度は適切でしたか。	4.20	4.23	4.26	4.39	4.35
⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。	4.48	4.49	4.51	4.59	4.56
⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	4.41	4.44	4.44	4.52	4.50

注)1 平成20年度は、専門職学位課程の臨床共通科目(前期)及び学校支援フロンティア科目(後期)を除く。

2 平成21年度は、専門職学位課程の臨床共通科目(前期)を除く。

(出典:学生による授業評価アンケート集計結果(平成17～21年度:平均値の比較))

【別添資料 10】

上越教育大学におけるGPA制度に関する取扱い

平成20年12月16日
第7回教員養成カリキュラム委員会
平成21年3月2日
第14回教務委員会

(趣旨)

第1 上越教育大学学校教育学部学生（以下「学生」という。）の成績について、総合的かつ客観的に評価し、学生の学習意欲向上に資するため、GPA制度を実施するものとする。

(定義)

第2 GPAは、各年度において、学生が履修し成績の評価（以下「成績」という。）が付与された次の各号に掲げる授業科目等を除く全授業科目等について、次項に定めるグレード・ポイント（以下「GP」という。）に基づく1単位当たりの平均値（以下「GPA」という。）をいう。

- (1) 人間教育学セミナー（教職の意義）
- (2) 教育実習（教育実地研究ⅠA、情報専修教育実習、幼稚園専修教育実習及び保育実習を含む。）
- (3) ボランティア体験
- (4) 専門セミナー
- (5) 履修方法が「自由」となっている授業科目
- (6) 卒業研究

(GP)

第3 履修科目の成績に対するGPは、次表のとおりとする。

成績	GP
S (90点～100点)	4
A (80点～89点)	3
B (70点～79点)	2
C (60点～69点)	1
D (59点以下)	0

(GPAの算出方法)

第4 第2項のGPAは、次の算式により、小数点第3位を四捨五入して算出する。

$$GPA = \frac{[(\text{当該年度において}) \text{成績が付与された各授業科目等の単位数} \times \text{各授業科目等のGP}] \text{の和}}{(\text{当該年度において}) \text{成績が付与された各授業科目等の単位数の和}}$$

(GPAの活用)

第5 学長は、学内委員会等にGPAの活用を促すものとする。

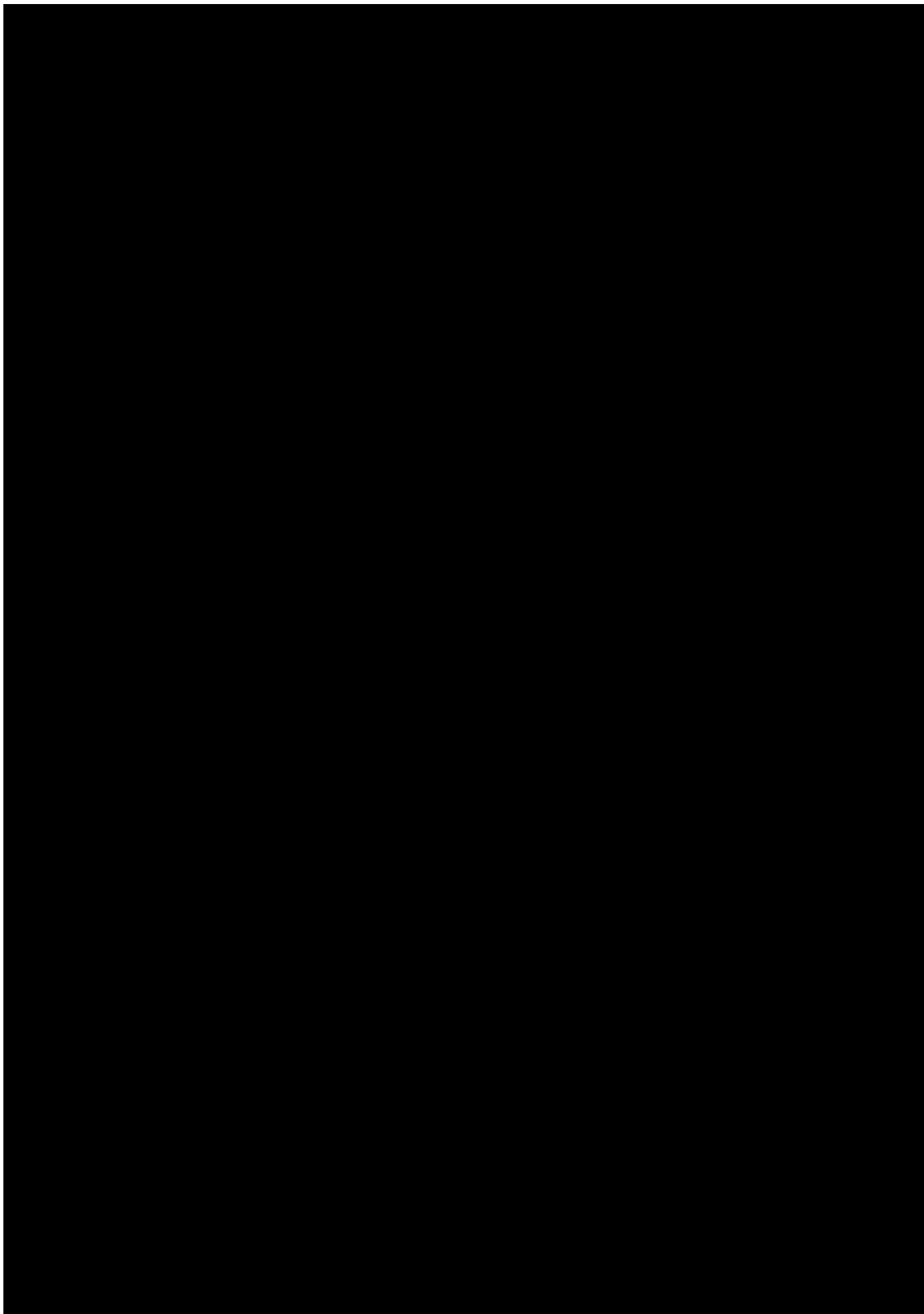
- (1) CAP制と連動した活用
 - (2) 進級等への活用
 - (3) 学生表彰への活用
 - (4) 奨学金への活用
 - (5) 教員採用等における就職活動に関する大学推薦への活用
 - (6) その他学生の学習意欲向上に資する取組で学長が必要と認めたもの
- (その他)

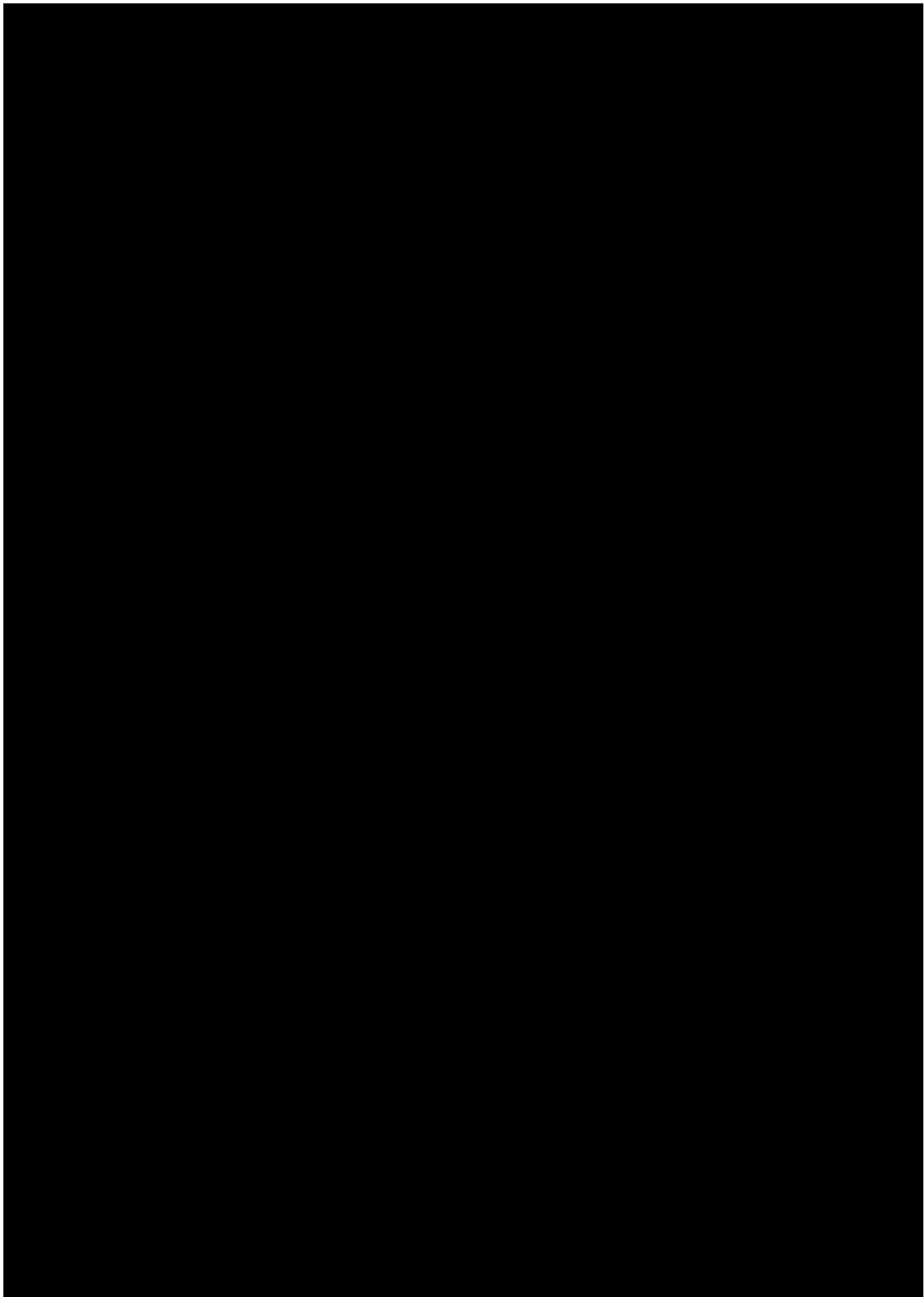
第6 この取扱いに定めるもののほか、GPA制度の実施に関し必要な事項は、教務委員会が別に定める。

附 則

この取扱いは、平成21年4月1日から実施し、平成21年度入学生から適用する。

【別添資料 1 1】授業改善事例（自己評価レポート抜粋）





【別添資料 1 2】

第 6 回教育実践研究発表会に関するアンケート集計結果
(抜粋)

アンケート回収 41名 回収率 36.6%
参加者：84名 発表者：28名 主催者：7名 計 119名

5 本年度参加されて改善すべきことがありましたら、遠慮なくご意見をお書きください。

- ・ 実践研究発表会を通して他校との先生と交流も出来たので良かった。
- ・ 日々の実践で生かすことが出来る考え方や技術を学べて良かった。
- ・ 様々な実践を聞くことができてとても参考になった。
- ・ 大変有意義であった。
- ・ 発表者という立場だったので、もっといろいろな分科会の実践発表を聞いてみたかった。
- ・ 初めての参加だったが大変勉強になった。
- ・ もう少しお話を聞きたい方もいたし、お話ししたいのに時間が足りない様子の発表者の方もいたようだ。時間がもう少しあるとうれしかった。逆にテンポ良く沢山聞くことができたメリットもある。
- ・ もう少し質疑応答の時間がとれると良いと思う。
- ・ 小学校、中学校分野での発表会時間がずれていると沢山聞けると思う。
- ・ いろいろな実践研究を聞くことにより自分に不足しているものが良くわかった。
- ・ 今後授業で行う上で視野が広がった気がする。
- ・ 社会科の資料の活用の仕方など、自分なりに工夫をしていきたいと思う。
- ・ 音響機器も充実すると音楽の実践発表の可能性が伝わると思う。
- ・ 以前の発表の時もそうだったが、発表者として参加するために、資料作りや精神面での労力を費やしたが、聞いている方がかなり少なく、質問も殆どなく、正直あまり晴れ晴れと達成感をもって終わることができなかった。
- ・ PCの調整などのために発表者控室があると助かる。
- ・ 昨年度の発表会に参加し、なんとか自分自身の論文をまとめ上げることができた。大変有意義な会であるので今後も同様のスタイルで続けていただきたい。
- ・ 聞きたい実践が同じ時間帯に重なるのが残念である。
- ・ 資料がなくなり困った。できるだけ資料を大目に用意して欲しい。
- ・ いますぐにできそうにはないけれど、ヒントになるなど良い刺激となった。
- ・ 実践研究論文が全てもらえるのはとてもうれしい。できればプレゼンシートも印刷してもらえると良い。
- ・ 建物周辺の除草がしていないのでとても歩きづらい。冷房があり涼しくて大変良い。

出典：「平成20年度 第6回教育実践研究発表会」(平成20年8月7日開催)
第6回教育実践研究発表会に関するアンケート集計結果

【別添資料 1 3】

○国立大学法人上越教育大学くびきの奨
学金給付要項

(平成21年 3 月12日)
(学 長 裁 定)

国立大学法人上越教育大学くびきの奨学金給付要項

(目的)

第 1 この要項は、上越教育大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院学生で、
経済的理由により修学が困難でかつ成績が優秀な者に対して奨学金を給付し、修学を支
援するため国立大学法人上越教育大学くびきの奨学金（以下「奨学金」という。）に関
して必要な事項を定める。

(資金)

第 2 奨学金は、上越教育大学創立30周年記念事業寄附金をもって充てるものとする。

(給付対象者)

第 3 奨学金の給付対象者は、前期又は後期の授業料免除申請者で授業料免除を許可され
なかった者とする。

(給付額等)

第 4 奨学金の給付額は、各期 8 万円とする。ただし、長期履修学生及び教育職員免許取
得プログラム受講学生にあっては、5 万円とする。

2 前項による給付は、別に定める予算の範囲内で実施する。

(給付申請手続)

第 5 奨学金の給付を希望する者は、本学が定める前期又は後期授業料免除の申請期間に、
授業料免除申請に併せて、別記様式の上越教育大学くびきの奨学金給付申請書を学長に
提出しなければならない。

(選考方法)

第 6 奨学金給付者の選考に当たっては、「上越教育大学授業料免除等選考基準（平成17
年 2 月 4 日学生委員会裁定）」を準用する。

(奨学金給付者の決定)

第 7 奨学金給付者の決定は、学生委員会の議を経て学長が行う。

(奨学金の返還)

第 8 学長は、奨学金の給付を受けた後、虚偽の事実が判明したときは、学生委員会の議
を経て、給付した奨学金の全部又は一部を返還させることができる。

(事務)

第 9 奨学金に関する事務は、総務部財務課の協力を得て、学務部学生支援課において処
理する。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、奨学金の給付に関し必要な事項は、学生委員会が別
に定める。

アドバイザー	実 習 生	担当特任教員	連 携 協 力 校			支援テーマ
			実 習 期 間	学 校 名	実習指導者 担 当 者	
赤坂 真二	6 (3)	小林 志郎 中野 博幸	10月～12月	〇〇中学校	〇〇	学級づくりの支援
赤坂 真二	4 (2)	笹川 恵美子 中野 博幸	〃	〇〇小学校	〇〇	学級づくりの支援
赤坂 真二	4 (1)	寺田 善男 中野 博幸	〃	〇〇小学校	〇〇	学級の人間関係づくりの支援
木村 吉彦	3 (1)	笹川 恵美子 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	地域に根ざした生活・総合
木村 吉彦	3 (1)	小林 志郎 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	学びを深め合い、進んで問題を解決する子どもの育成
小林 辰至	1	笹川 恵美子 小林 志郎 寺田 善男 清水 雅之	〃	青少年教育施設	〇〇	宿泊体験学習
西川 純	4 (2)	寺田 善男 中野 博幸	〃	〇〇小学校	〇〇	異学年学習と小学校英語
西川 純	5 (2)	笹川 恵美子 中野 博幸	〃	〇〇小学校	〇〇	特別支援と小学校英語
西川 純	4	小林 志郎 中野 博幸	〃	〇〇中学校	〇〇	中学校の授業支援
岩崎 浩	2 (1)	小林 志郎 清水 雅之	〃	〇〇小学校 〇〇中学校	〇〇	算数の指導 基礎基本の定着
松沢 要一	3 (1)	笹川 恵美子 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	算数の学力向上
松沢 要一	4 (1)	寺田 善男 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	算数の学力向上
水落 芳明	4 (2)	笹川 恵美子 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	学びあう学習集団作り
水落 芳明	3 (1)	寺田 善男 清水 雅之	〃	〇〇中学校	〇〇	ICT を活用した学習デザイン
松本 修	3 (2)	寺田 善男 中野 博幸	〃	〇〇小学校	〇〇	読解力向上のための授業研究
松本 修	3 (2)	小林 志郎 中野 博幸	〃	〇〇小学校	〇〇	生きて働く言葉力の育成
松本 修 瀬戸 健	3 (3)	笹川 恵美子 小林 志郎 寺田 善男 中野 博幸	〃	〇〇教育委員会	〇〇	特別支援教育
瀬戸 健	2 (1)	笹川 恵美子 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	学力の向上と指導技術の共有
瀬戸 健	3 (2)	寺田 善男 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	活用力を育成する授業改善
瀬戸 健 久保田善彦	3 (1)	小林 志郎 中野 博幸	〃	〇〇中学校	〇〇	学習指導
久保田善彦	3 (1)	寺田 善男 清水 雅之	〃	〇〇小学校	〇〇	探究の筋道を切り拓く子どもの育成
藤田 武志	3 (3)	笹川 恵美子 清水 雅之	〃	〇〇中学校	〇〇	かかわり合う力の育成
藤田 武志	3 (3)	小林 志郎 清水 雅之	〃	〇〇中学校	〇〇	小中連携と人間関係づくり
藤田 武志	5 (4)	寺田 善男 清水 雅之	〃	〇〇中学校	〇〇	人権・同和教育と特別活動
武嶋 俊行 結城 忠	3 (3)	小林 志郎 中野 博幸	〃	〇〇中学校	〇〇	小中連携した学校
廣瀬 裕一	3 (3)	笹川 恵美子 中野 博幸	〃	〇〇小学校 〇〇中学校	〇〇	小中連携を軸にした学校運営

※実習生欄の () 内は現職教員学生数で、内数。

上越教育大学 研究プロジェクト（第1号）成果報告書

目 次

I	巻頭言	副学長 川崎 直哉	-----	1
II	成果報告			
1	上越市立大手町小学校の教育課程開発・授業研究システムのモデル化の試み			
	ー School based Curriculum 開発システムの研究ー	教授 増井 三夫	-----	3
2	臨床的手法を用いた比例的推論の基礎としての測定概念に関するカリキュラム開発			
		教授 中村 光一 准教授 高橋 等	-----	25
3	国際理解に焦点をあてた小学校英語活動の学習プログラム構築			
		教授 北條 礼子	-----	45
4	小学校中学年における比例的推論育成のための学習活動系列に関する学習過程			
	臨床的研究	教授 布川 和彦	-----	71
5	児童生徒の問題行動対策重点プログラムの開発研究			
		教授 林 泰成	-----	91
6	児童生徒が地域社会で主体的に活動するための教育支援に関する実践的研究			
	ー 特別支援学校と家庭や関係機関との連携の在り方ー			
		教授 藤原 義博 講師 村中 智彦	-----	101
7	特別支援教育に係わる教員養成・研修を目的とする地域連携システムの試行的構築			
		教授 大庭 重治	-----	113
8	特別支援教育における個別の教育支援計画作成に関する実践研究			
		講師 藤井 和子	-----	123
9	教員養成における表現・コミュニケーション実習の実践的研究ー身体表現と映像メディア			
	とを融合させた新しいマルチメディアの捉えー			
		教授 阿部 靖子	-----	143
10	小中の接続を意識した新たな図形領域の単元構成			
		附属中学校長 齋藤 九一	-----	157
11	人とかかわる力を育む新しい教育課程の開発			
		附属幼稚園長 大瀧ミドリ	-----	175

- 12 公立中学校における生徒の学力向上のための取組に対する臨床的支援プロジェクト
教授 朝倉 啓爾 ----- 195

- 13 インターネット等を用いた遠距離校への教育実践改善のサポート
教授 西川 純 ----- 219

- 14 小学校理科における同期型C S C Lを用いた学習コミュニティの変容に関する研究
准教授 久保田 善彦 ----- 239

- 15 地域の地質素材を活かした総合学習教材の開発
教授 天野 和孝 ----- 253

- 16 本学必修科目「表現・状況的教育方法演習」(学部1年／後期)のカリキュラム
開発ー学外の実践者と本学教員のコラボレーションによる授業の構築と実践ー
准教授 高石 次郎 ----- 273

- 17 「中1ギャップ」解消に向けた基礎的総合的研究 ー附属小中学校の社会科・
総合的な学習を中心にー
准教授 釜田 聡 ----- 295

- 18 University Personality Inventory (UPI)にみる上越教育大学学生の心身医学的
評価 (23年間の変遷) と学部教育への還元
教授 増井 晃 ----- 315

- 19 「心豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程」における教育活動の構想と展開
附属小学校長 佐藤 芳徳 ----- 335

* 研究代表者については、プロジェクト実施時の氏名を記載した。

【別添資料 1 6】学校教育実践研究センター研究報告書(平成21年度版)目次

目 次

客員研究員研究報告

- 1 世界史学習の進め方ー地域から考える世界史ー…………… 1
- 2 江口武正『耕地整理』の今日的意義と地域に根ざした教育の課題…………… 20
ー社会問題への教育実践からのアプローチの可能性ー

「臨床的・実践的・開発的研究の推進」部門研究成果

- 1 「教育実習の手引き」改訂のための基礎的研究
 - (1) 小学校版…………… 28
 - (2) 中学校版…………… 30
- 2 授業研究法を開発するための基礎的研究
 - (1) ICT の日常的活用の中で子どもとともに創造する学びの研究…………… 32
 - (2) 長期集団宿泊体験活動がソーシャルスキルに与える影響に関する調査研究…………… 34
ー「妙高フレンドスクール」が児童と大学生のソーシャルスキルに及ぼす影響ー
 - (3) PISA 型読解力の向上を図った言語活動の充実…………… 38
 - (4) 実感を伴った確かな理解を導くために…………… 40
ー小学校理科新内容に焦点を当ててー
 - (5) 大学院生の ICT を活用した授業に対する意識の変容…………… 42
ー電子情報ボードとデジタル教科書を用いた演習を通してー
- 3 社会認識を深めるための教材開発研究…………… 48

この部分は著作権の関係で掲載できません。